

事業名：臨床心理士によるコンサルテーション

氏名：御園生 直美 氏（臨床心理士）

報告者：上鹿渡 菜穂子（予防・家族再統合コーディネーター）

〈目的〉

- うえだみなみ乳児院は機能転換に向けて新しい事業をすすめる中、里親委託支援のケース対応、妊娠葛藤相談のケース対応、また家族再統合支援のケース対応など更なる専門スキルが必要とされている。発達心理学の専門家であり、里親支援にも関わる臨床心理士のコンサルテーションを定期的に受けることによって、ケースに対応する知識・スキル向上、施設ケアの養育の質の向上、職員のメンタルヘルス対策を行う事を目指す。

- 各チームの目的

- フォスタリングチーム

- ・ケース対応での心理面のアドバイス
- ・業務の組み立て方や見直し
- ・職員のメンタルヘルス管理
- ・アセスメントの途中で中止になるケースについてのアドバイス
- ・委託後の事例検討

- パーマネンシーチーム

- ・SOS 妊娠葛藤相談の特別に心理的対応が必要なケースに関するアドバイス
- ・予防・家族再統合事業での個別ケースのアセスメント・対応アドバイス

- 施設ケアチーム

- ・子どもの気になる行動からみえるアセスメントとその対応についてのアドバイス

- その他

- ・職員のメンタルヘルス対策（業務に関すること）

〈内容〉

- 実施方法

- ・うえだみなみ乳児院本院もしくはうえだみなみ乳児院上田原事務所にて、zoom を活用しコンサルテーションを受ける。施設養育チーム月 2 時間、フォスタリングチーム月 1 時間、パーマネンシーチーム月 1 時間。施設全体で年間 48 時間実施。
- ・コンサルテーション終了後、各チーム担当者はコンサルテーションの内容に関して報告書を作成する。

〈結果〉

● 実施日

施設養育チーム 計 24 回 (24 時間)

4 月 12 日、4 月 24 日、5 月 6 日、5 月 20 日、6 月 10 日、6 月 24 日、7 月 1 日、7 月 22 日、
8 月 19 日、8 月 26 日、9 月 23 日、9 月 30 日、10 月 10 日、10 月 31 日、11 月 7 日、11 月 21 日、
12 月 19 日、12 月 26 日、1 月 7 日、1 月 24 日、2 月 6 日、2 月 13 日、3 月 日、3 月 日

フォスタリングチーム 計 10 回 (10 時間)

4 月 5 日、6 月 12 日、7 月 29 日、8 月 26 日、10 月 3 日、11 月 6 日、12 月 4 日、1 月 30 日、2 月
4 日、3 月 18 日

パーマネンシーチーム 計 12 回 (14 時間)

4 月 5 日、5 月 17 日 (2 時間)、6 月 21 日、7 月 19 日、8 月 26 日、10 月 4 日、11 月 6 日、11 月
29 日 (2 時間)、12 月 24 日、1 月 24 日、2 月 4 日、3 月 18 日

● コンサルテーションに関するフィードバック

- ・ 2020 年 3 月にコンサルテーションに関するフィードバックアンケートを行った。(以下一部抜粋)

① 1 年間のコンサルテーションについてどのように感じましたか？(よかったと思う事や難しく感じた
こと等)

- ・ 悩んでいたことや子どもの行動で気づけなかった部分を教えてもらうことができ、養育に生かすことができた。心に余裕をもって子どもと関わることができたように感じる。
- ・ 里親交流や家庭復帰後の親子のかかわり方、親や外部機関との連携など参考になった。
- ・ 乳児院という限られた人数では意見や知識的に限界がある中で心理士という新しい分野から意見がも
らえ、見方が広がった。
- ・ 子どもの行動がなぜ起きるのか、どうしてやってしまうのかを理解できた。
- ・ 子どもや親族の方について養育者同士では話をしても分からなかったことが相談でき、対応方法も知
ることができた。
- ・ 子どもの行動や言動等で気になることを心理面で相談できるので、日ごろの養育で役立つ知識を得ら
れた。
- ・ 日頃の勤務の中で疑問に感じていること等丁寧に質問に答えていただき、自信を持ち仕事にあたるこ
とができ、心の支えになっていたと思う。
- ・ 現場の状況 (細かいニュアンス) を伝えることが難しかったと思う。
- ・ 外部の方が客観的に施設 (施設ケア、フォスタリングチーム、パーマネンシーチーム) を観、必要な
情報、助言を頂けることは、大変ありがたかった。走り続けていると視野が狭まりがちになるので、周
りを見回す良い機会になった。
- ・ 自分の知りたいこと (主に心理領域の知識) について教えていただけでよかった。

・心理とワーカーの領域や住み分けについて、コンサルテーションの中で感じられた。(相談者との距離感や職種としての役割について)

- ・心理に関する事例、例えが分かりやすかった。
- ・セラピーの最先端の知識を教えていただけてよかった。
- ・客観的な立場から様々なアドバイスをしていただいた。判断に迷ったことなど相談させていただき、いろいろなことを決断したり、業務に活かすことができ、本当に心強かった。
- ・里親さんに関わる中での悩みや難しく感じていること、また里親さんから受けた相談で専門的なアドバイスを求められた事についてアドバイスを頂いたことで次につなげていくことができた。
- ・愛着やトラウマの面からのアドバイス等もとても勉強になった。
- ・里親さんの性格・心理状態を的確にとらえ、それに対する対応の仕方を分かりやすくおしえていただいた。
- ・最初は何を相談したらよいかもわからない状況でのスタートだったが、コンサルを受けていく中で、対象の保護者や家族との関わり方、特に支援者としても関わり方、距離感を意識できるようになったことはとても勉強になった。
- ・相談したいことがいくつもあったときに、限られた時間の中で相談していくことが難しく感じたこともあった。

② 1年間コンサルテーションを受け、何か変化がありましたか？(自分の心の変化や子どもへの養育について等)

- ・気づくことができなかつた子どもたちの行動でのサインに対応することができるようになったことを感じる。
- ・子どもたちの気持ちに寄り添うことができ、自分にも心の余裕が持てたように思う。
- ・年齢や特性に合った対応について改めて考えることができた。
- ・子どもや保護者の気になることについて、その背景に何があるのだろうか一呼吸おいて考えられるようになった。
- ・専門的知識に基づくアドバイスを頂けたので、子どもの行動に対する反応を定めることができた。
- ・心に余裕ができ、また頑張ろうと思えた。
- ・具体的な子どもたちのかかわり方などアドバイスを頂き、違った視点で子どもたちを見ることができ、今まで見えなかつた子どもたちの思いに気づけたり、今まで接していた自分の姿を振り返るきっかけになった。
- ・子どもがこういうことを考えているからこういう行動をしていると分かり、以前より混乱しないで養育ができた。
- ・相談の際、共感してもらえたり、自分のやったことが間違っていないといわれ安心することができた。
- ・辛いときにコンサルを受け、話を聴いてもらい、とても心が軽くなった。自分に余裕ができ、子どもたちに広い心で接することができた。
- ・自分の置かれている状況を客観的な視点でとらえる機会になった。この職、事業だからの課題を個人の問題として終わらせずに捉えることができた。
- ・入所児の心のケア等、施設ケアの職員と一緒に考えながら支援に取り組むことができた。

- ・子どもの気持ちに寄り添うことの大切さを意識するようになった。
- ・子どもの相談だけではなく、支援者のメンタル面をいつも気にかけてくださり、相談しやすかった。
- ・里親さん、児相、他施設との職員と関わる中で、対応を難しく感じたり、今後どのようにしていったらよいのか悩みをきいていただき、マイナスに思っていたことも具体的な手立てをきいてプラスに思えるようになった。
- ・里親の人格等をしっかりとらえることで、言葉掛けや伝え方、関わり方を工夫しながらソーシャルワーカーとしての支援ができたと思う。
- ・コンサルで学んだことを里親支援につなげたことで、里親さんの学びにもなり、里親さん自身も子どもの見直しになった。
- ・支援者としての自分が揺れずに適切な枠を意識しながら寄り添い、関わっていくことが保護者の安心にもつながるということ意識して関わろうと思うようになった。

③ その他

- ・子どもだけでなく、保護者との関りについて教えていただいたこともとても勉強になった。
 - ・里親交流や家庭復帰後の親子のかかわり方、親や外部機関との連携など参考になった。
 - ・限られた回数だったが、とても勉強になった。日勤の方も参加できる機会があるとよいとおもいました。
 - ・直接コンサルテーションを受けることはなかったが、他の養育者がコンサルテーションを受けた結果をフィードバックしてくれたことで、子どもたちとの関わりに変化ができ、とてもよかったと思う。
 - ・コンサルテーションは受けていないが、他の養育者から、具体的なお話で、理解や養育に役立っているという話をきいた。養育者の養育行動もこの1年で変化を感じた。
 - ・心理の分野の知識があまりなかったのもとても勉強になった。
 - ・心理士という分野がいかに大切であるか改めて感じる1年だった。学んだことを現場で活かしながら里親さんを支えていきたい。
 - ・コンサルテーション後の報告書をPC以外で閲覧等でも皆が見れるようにすれば、養育の質を高めていくこともできたのではないかと思う。
- 1年間の臨床心理士によるコンサルテーションによって、①心理や発達心理の専門的な知識の提供、②ケースのアセスメントや対応等新しい視点の提示、③関係機関との連携等ネットワーキングの促進、④精神的な支え等がなされ、入所児童や家族また里親や里子のニーズに沿った支援のためのスキル向上や専門的な知識への理解が深まった。コンサルテーション後半では、コンサルテーションの目的をよりチームで明確にしたうえでコンサルテーションを受け、その後その内容をチーム内や院全体で共有し、実際の支援や養育の現場で活かすことができた。今年度心理士のコンサルテーションによって得られたことを、引き続き今後の支援や養育の場で共有し、活かしていきたい。

以上